

普及指導員調査研究報告

課題名：飼料用米現地実証栽培による栽培特性等の把握

農林総合技術センター農業担い手支援部 就農・技術支援室
担当者氏名：藤本和正

<活動事例の要旨>

「北陸 193 号」と成熟期がほぼ同じで、「ホシアオバ」より多収で脱粒性が難の「中国 217 号」の収量性及び疎植適応性について、山口市南部の現地圃場で検討した。「北陸 193 号」に低温による不稔が多発したこともあり、「中国 217 号」が「北陸 193 号」より収量(粗玄米重)は多かった。また、「中国 217 号」の標準植えと疎植も収量(粗玄米重)の差はなかった。これらのことから、「中国 217 号」は「北陸 193 号」と同等以上の収量があり、疎植による低コスト化も可能なことが確認された。

1 普及活動の課題・目標

本県では飼料用米の作付け拡大が進んでいるが、平成 27 年の生産量は、2,996t であり、平成 29 年の目標数量 4,300t を満たすためには、引き続き生産拡大を図る必要がある。また、現在県内で作付けられている飼料用米専用品種は、脱粒性等問題点もあり、新たな品種の導入が求められている。

そこで、「中国 217 号」の現地実証ほを設置し、「北陸 193 号」と比較した収量性及び疎植適応性について検討した。

2 普及活動の内容

(1) 調査研究機関の構成

農林総合技術センター土地利用作物研究室・農業担い手支援部 就農・技術支援室

(2) 調査研究期間

平成 27 年 5 月～平成 27 年 10 月

(3) 調査研究の対象地域・場所

山口市南部(山口市陶)で飼料用米の生産に取り組んでいる協力農家に、実証ほを設置した。

(4) 調査研究方法の概要

①供試品種・系統：「中国 217 号」、「北陸 193 号」(対照)

②移植期：6 月 21 日、稚苗機械移植

③栽植密度：中国 217 号－14.7 株/m²、11.1 株/m²
北陸 193 号－14.3 株/m²

④施肥：鶏糞(N-P-K：2.2-5.8-3.7) 1 t /10a (4/29 施用)
緩効性肥料(N-P-K：23-10-12) 窒素 13.8kg/10a
追肥 硫安 窒素 2.1kg/10a (8/18 施用)

3 普及活動の成果

(1) 気象の概要

移植後、6 月 2 日に梅雨入りし、7 月 29 日の梅雨明けまで、概して気温は平年並～やや低く、日照時間は平年より短かったが、6 月第 5、第 6 半旬は平年より日照時間が

長かった。梅雨明け後は一転して高温多照天候となったが、8月第4半旬に入ると再び寡日照となり、気温も平年より低い状況が9月第4半旬まで続いた。また、8月25日には台風25号の接近による強風や豪雨があった。

(2) 生育の推移

草丈は「中国217号」が「北陸193号」より短く推移し、稈長も「中国217号」が短かった。

茎数は移植後50日頃まで「中国217号」が少なかったが穂数は「北陸193号」と同程度となった。等となった。また「中国217号」の疎植は標準植えより茎数が少なく推移し、穂数も疎植が少なくなった(図1)。

「中国217号」は「北陸193号」より出穂が4日早かった。また、「中国217号」の標準植えと疎植は出穂期に差はなかった。また、8月、9月の低温寡日照の影響で両品種・系統とも出穂が遅れ、成熟期には至らなかった。

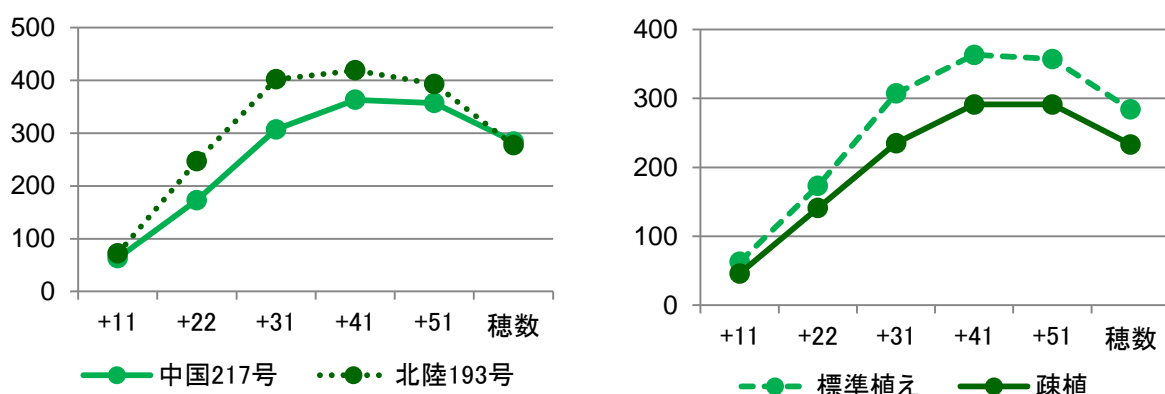


図1 穂数(右: 本/m²)の推移

(3) 収量

「北陸193号」に低温による不稔が多発したこともあり、「中国217号」が「北陸193号」より収量(粗玄米重)は多かった。また、「中国217号」の標準植えと疎植も収量(粗玄米重)の差はなかった。玄米タンパク含有率は「中国217号」が「北陸193号」より高かった(表1)。

表1 収量調査結果

品種名	区名	栽植密度 (株/m ²)	全重 (kg/10a)	粗粳重 (kg/10a)	精粳重 (kg/10a)	粗玄米重 (kg/10a)	精玄米重(kg/10a)			千粒重 (g)	玄米タンパク含有率 (%)
							1.7≦	1.85≦	1.9≦		
中国217号	標準植え	14.7	1055	888	844	677	654	613	579	24.3	8.8
	疎植	11.1	1044	897	865	704	691	663	636	24.9	8.6
北陸193号	標準植え	14.3	1210	822	791	635	631	615	580	23.0	8.0

4 今後の普及活動に向けて

北陸193号よりも収量性が高いことが山口市南部でも確認された。今後、年次変動を確認するため、次年度も同様の現地実証を継続し、優良品種の選定、普及を推進する。